

「東郷学園義務教育学校の東郷土人形伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

4年生 計51人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年5月～7月 ふるさと・コミュニケーション科（本校技術室）

(2) 発表の日時・場所

完成後、東郷学園義務教育学校にて展示

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統行事，伝統工芸品について

(1) 名称

東郷土人形（とうごうつちにんぎょう）

(2) 由来

戸木田伊助さんらが東郷でとれた粘土を使って、明治の初め頃から作り始めた。人形作りが盛んな頃は、東郷町舟倉に、人形専門店が2～3軒あり、2月には人形市が開かれていた。作品としては、菅原道真公、庶民のささやかな安全や幸福・五穀豊穰や商売繁盛を願う恵比寿様や大黒様、縁起物・節句物・歌舞伎役者等、およそ50種類の人形が作られていた。

(3) 構成等

空気を抜き、適度に柔らかい粘土を作る。粘土を二つに分けた型枠に入れ、指で押して型にしっかりとつける。同じ方法で一方の型に粘土をつける。二つの型枠から外した粘土を合わせる。乾燥させ、胡粉をぬり、絵付けを行い完成となる。

5 保存会や地域との連携の具体

東郷土人形の最後の人形師であった榎治右衛門氏さかき じゅう えもんが昭和4年に亡くなつてから、途絶えたと言われている。東郷町文化財保護審議会委員長に山口忠正氏やまぐち ちゅうせいが就任し、東郷土人形が消え去ることを危惧し、有志と共に保存活動を始めた。現在は、齋藤政恭氏を中心に保存活動に取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

4年生のふるさと・コミュニケーション科「東郷地域の伝統芸能の継承」の一つとして位置付け、制作活動に取り組んでいる。完成した作品は、3月に行われる「おのぶっ祭」に展示し、参加した方々に鑑賞していただいている。制作活動では、現存する東郷土人形の型枠等の道具を使い、可能な限り当時に近い作り方で指導していただいている。子供たちは数種類の型枠の中から好きな型を選択し、自由に彩色しながら、楽しく制作に取り組んでいる。

東郷地域では、希望する保護者や児童生徒を対象に公民館講座の一環として、「土人形作り」を開設し、地域の方々の興味関心を高めることに努めている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【型入れの準備作業】



【人形に胡粉付けをする作業】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

東郷に伝わる土人形の作り方を地域の方が分かりやすく教えてくれてうれしかったです。とてもかわいい人形を作ることができました。友達も上手に作っていたので、みんないい作品ができたと思います。作った人形を家に持って帰って、さっそく飾りたいと思います。

【教職員】

子供たちは、とても楽しく東郷土人形作りに取り組むことができた。分からないことを教えていただいたり難しい作業は手伝っていただいたりしながら講師の先生方とのコミュニケーションもとることができた。今年も素晴らしい作品に仕上げることができてよかった。

【保護者から】

東郷に伝わる土人形を初めて見ることができた。価値のある作品だと思った。一つ一つ個性が出ているのも良かった。

【地域・保存会の方から】

東郷に伝わる東郷土人形づくりを子供たちが実際に体験することがまずは大切であるとする。この体験が大人になった時、ふるさとを思い出すきっかけにもなる。それが東郷土人形づくりを伝承していくことにつながっていくので、今後も子供たちと関わって教えていきたい。